



## フーガト短調

バッハ 作曲

🎨 口絵5「パイプオルガン」

- ◎次々と現れる主題に注目し、旋律の重なりを楽しみながら聴きましょう。
- ◎パイプオルガンの豊かな響きを感じ取りましょう。

\*主題…楽曲を構成する主な旋律。

### 楽曲について

フーガは、バッハの活躍した時代によく用いられていた形式の一つです。バッハはその形式をより充実したものとし、多くの作品を残しました。その中でも「フーガト短調」は、小規模ながら荘厳な雰囲気をもつ名曲として知られています。同じト短調の「幻想曲とフーガ」と区別するために、「小フーガ」の愛称でも親しまれています。

\*フーガ…始めに示された主題が、次々と加わる他の声部によって、繰り返されながら発展していく形式。



### J. S. バッハ (1685~1750)

バッハは、ドイツのアイゼナハに生まれました。その家系には多くの音楽家があり、バッハは兄からオルガンの基礎を教わりました。18歳頃からはドイツ各地の教会や宮廷に仕え、そ

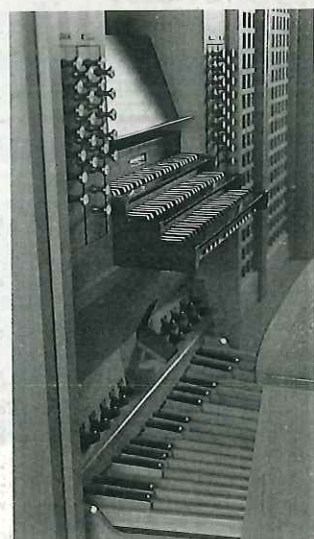
こで演奏するための音楽を数多くつくりました。管弦楽曲や室内楽曲、オルガン曲、チェンバロ曲、宗教音楽などで1000曲以上にものぼる作品は、今でも広く親しまれています。

### パイプオルガンについて

パイプオルガンのパイプは、それぞれが1つの音だけを出す笛のようになっており、奏者が鍵盤を押すと、特定のパイプに空気が送り込まれて音が出ます。音の高さはパイプの長さによって、また音色はパイプの材質や構造によって決まります。そこで、いろいろな高さの音や多彩な音色を得るために、パイプの本数がしだいに多くなり、それに伴って鍵盤の段数が増やされたり、足で弾く鍵盤が付けられたりしました。現在、多いものでは5000本以上のパイプをもつオルガンも作られています。

鍵盤の横には「ストップ」と呼ばれる装置があります(右の写真参照)。これを利用して鳴らすパイプを選ぶことにより、音色を変化させることができます。

現在はコンサートホールでも目にすることができますが、もともとはキリスト教の教会で礼拝に用いられる楽器として古くから発達してきました。



▲パイプオルガンの演奏台